

【1月号：バナナの国で平泳ぎ】

< 野球の試合 >

先輩隊員の中に野球隊員の方がおられました。この度任期を終え帰国されたのですが、その方の発案で12月末に野球をしてきました。

僕の任地から約7時間離れたポルトビエホという町で、少年野球所属の選手や草野球チームの大人たちと試合をしました。

練習で子供のようにダイヤモンドを走り回り試合前には暑さになだれていたJICAチーム、試合ではほぼ全員安打を達成しましたが、勝てませんでした。おそらく原因は水泳隊員2名を含むスポーツ隊員の不調です。先輩隊員は肉離れを起こし、水泳隊はなかなかバットにボールを当てる事が出来ませんでした。「バットを振れば当たる」、そんな簡単な競技じゃありませんでした。

送別会ならぬ、送別試合でしたが1日が終わってみるとすごく楽しかったです。スポーツ交流の良さを改めて確認させてもらう機会になりました。



↑画面左のグローブを頭にさせてるのが僕です。

< 2014年を振り返る >

2014年は日本遠征を行った約1ヶ月を除いて丸1年エクアドルで活動しました。昨年に比べ国内遠征に行く機会を減らし、水泳教室の運営に重きを置いた年でした。

配属先で水泳指導ができる同僚は3人います。日本のスイミングスクールと比べると圧倒的に指導者の数が不足しており、安全管理の面で指導者の数は増やすべきです。しかし、財政的な問題から指導者をさらに雇うことは不可能であり、安全面の確保のためにはほかの策が必要でした。そんな時、手を差し伸べてくれたのが生徒の保護者たちでした。

日本と同じようにエクアドルでも、保護者は練習を観に来ます。水泳教室に入りたての子の保護者はとくに観覧しに来るのですが、そういう子はまだプールでのルールを知らないため自分勝手に行動し始めます。場合によっては僕が叱りますが、1回で手なずけられるほど僕はエキスパートではないので保護者に相談するようにしました。



保護者会の様子

保護者との相談では生徒の授業態度や進捗状況なども話しますが、日本での指導方法についても話したりしています。こういう相談を続けているうちに、保護者も自分の子以外の子にも注意してくれるようになり、結果的ではありますが監視の目を増やすことが出来ました。配属先プールが工事で使用できない状態でも、保護者による情報提供でその日その日の練習場所が確保できたりと味方ができて頼もしい限りです。

水泳に限らずスポーツ指導の現場では、保護者の協力が必要不可欠です。「水泳教室運営には保護者の声も必ず反映させること」を口ずっぱく説明してきたので、指導者と保護者の良い関係作りに一役買えたかなと思っています。

< 2015年の抱負 >

2015年の活動期間は半年しかありませんが、スペイン語での説明が赴任当初よりうまくできるという自信があるので、今までに取り組んできたことを掘り下げる作業をやりたいと思っています。簡単なことから複雑なことへ。水泳は泳ぎ手の運動感覚を研ぎ澄ますことがトレーニングです。

2年間の活動を終えると、次は経験の社会還元が僕の仕事です。その準備段階と言いますか、職場や生徒の学校で講演会を企画しています。来年には南米初のオリンピックがブラジルで開催されるので、このことを交えながら活動を紹介しようと思っています。また2月中旬には同期3人の水泳隊員で行う研修会を控えています。エクアドル中の水泳のコーチを集めて、今までの活動紹介や、知識の共有を図ります。

帰国後はどんなことができるでしょうか。次の進路のこともしっかり考えながら、活動の最終段階に臨みたいと思います。



練習前と練習後のあいさつ。日本語で実践中です！
いろいろなことへの感謝を忘れないように。→